

## 鳥羽の答志島

# 奈佐の浜で漂着ごみ清掃

県産業廃棄物  
対策推進協

可・不燃物290キロ、流木5トン

【鳥羽】県内の四十社、四団体からなる県産業廃棄物対策推進協議会は二日、二十社二十八人が参加して鳥羽市の答志島、桃取町の奈佐の浜で、漂着ごみの清掃活動を実施した。

同協議会は、県の伊勢湾海岸漂着物対策推進協議会

の委員として、伊勢湾に漂着する約一万二千トンのごみのうち、答志島に全体の四分の一が流れ着く現状を把握。実態を知るために研修会として現場を訪れた。

会員らは、鳥羽磯部漁協桃取町支所の小浦嘉門理事の案内で奈佐の浜に到着。

海岸には先月二十八日の悪天候で、大量の漂着物が着岸し飛散していた。この日も海岸に強い風が吹き付け、参加者はビニール袋を手には、ペットボトルやプラスチックなどの可燃ごみとビンや缶、ライターなどの不燃ごみを黙々と拾い、最後に流木を数カ所に分けて集め、約一時間半の清掃活動を終えた。

作業後、会長会社である東ソー四日市事業所の大平

章示さんと副会長会社のJ S R 四日市工場の高橋秋義さんは「想像以上に生活ごみが多かった」とし、「産廃だけでなく、自分たちの生活に関わるごみについても考える機会になれば」と、話していた。

鳥羽市によると今回の清掃で回収した可燃物は二百五十キ、不燃物四十キ、流木は五トンにもなった。

(下村恵美)



奈佐の浜で漂着物を拾い集める会員の皆さん。鳥羽市桃取町で